



**静岡も元気になり、
学校も元気になる、
そんなコンテンツを学生に
提供していきたい！**

静岡産業技術専門学校

みらい情報科

しおざき まさき

学科長 塩崎 雅基 様

Q1：はじめに静岡産業技術専門学校について教えてください。

静岡産業技術専門学校は1970年に、静岡県自動車学校から独立する形で、情報処理の専門学校として設立されました。現在ではこの情報系の学科として、4年制のみらい情報科と、2年制のコンピュータ科、3年制のゲームクリエイト科の3つがあります。

またそれ以外にも、アニメーションなどを扱うCG技術科や、CADの技術や設計を扱うCADデザイン科、さらに建築科がありまして、これらがデザイン系と呼ばれる学科になります。ほかにも医療事務担当者や病院の受付スタッフを育成する医療事務科、保育士と幼稚園教諭の免許を取得して保育士もしくは幼稚園教諭になるということも保育科と、あわせて8つの学科をもつ専門学校です。

Q2：ご担当のみらい情報学科ほか情報系のカリキュラムはどのようなものですか？

みらい情報科は情報系としては珍しく4年制となっているのですが、これは帝京大学と連携により、専門学校卒だけでなく、大学卒の学位を取得できる仕組みになっています。そのため学生たちは、帝京大学と静岡産業技術専門学校の二つの学校に所属する、ということになります。

大まかなカリキュラムとしては、まず1年生のはじめに情報処理試験の基本情報技術者（以降：FE）の合格を目指して勉強をしていきます。そこから学習を積み重ね、2年生では応用情報技術者（以降：AP）を目指します。ここまでの基礎教育として、3年生からはプログラミングとサーバーやネットワークの構築を通して、大規模なシステム開発に取り組んでいきます。さらに4年生では、社会問題に照らし合わせたITソリューションを提案することをテーマとして、卒業研究に取り組みます。

また、2年制のコンピュータ科の方は、はじめにFEを取得することを目指して学習していきます。1年目の秋に取得して、そのまま就職活動に入るとともに、情報処理試験の知識や能力を使って、システムエンジニアやプログラマーを目指していくという学科になります。ちなみに就職が決まったら卒業研究というか、何かひとつ自分たちのここまで勉強してきた内容を使って課題制作を行って、それから卒業していくというようになっています。

もう一つ、ゲームクリエイト科は3年制で、その名の通りゲームを作るために必要な技術を学んでいきます。情報処理の技術はもちろん、CGやアニメーション、音楽のほかゲーム用の数学など、そういったことを学んで、最終的にはオリジナルのゲームを1本制作し、卒業していくという形になりますね。

Q3：新型コロナウイルス拡大によって、御校が受けた影響について教えてください。

コロナの影響としては、前年度の学生の卒業式から大きな影響がありましたね。本校は静岡理工科大学グループに所属しておりまして、静岡と浜松、沼津に計6校の専門学校があり、例年ならば卒業式・入学式は合同で盛大な式典を行うところ、中止となりました。

またそれ以降も多くの学内行事が、ほぼ全て中止になりました。本校では新入生を受け入れるときに、学校の中で学生同士のコミュニケーションを取れるような行事を毎年行っているのですが、今年は動物園でフォトロゲイニングという、みんなでお題に基づいた写真を撮って、アップロードして点数を競うということをバラバラで行ったくらいでしょうか。例年であれば、いろいろな展示会に行ったり、レクリエーションでどこか遊園地や水族館に行ったりなどをしますが、全部なくなりました。

それと本校の目玉として海外研修というのがあるのですが、これも流石に実施できないということになり、中止という形になってしまいました。

授業についてですが、カリキュラムを変更するわけにはいかないのでも、やり方を変えたというのが大きいところでしょうか。今年の方針としては例年の水準を落とさないこと、新しいことに挑戦するというよりは、水準を落とさないことを中心に活動してきました。

緊急事態宣言のときは、オンライン授業を実施しました。4月中は任意の形で試験的に授業を実施してみようということで、知見を集めるような形でしたが、GW明けからは全校一斉でZoomによるオンライン授業に切り替えました。

Zoomを選んだ理由はすごく単純で、学生たちを一画面で見られるからです。学生たちにはカメラとマイクをONにして受講してもらい、一般的な授

業と同じように進めていきました。

我々も従来からパワーポイントや動画を使っていたので、それほど大きく授業形態が変わったということはありません。本校も最初はオンデマンド配信も考えましたが、リモートでも対面効果を重視し、ライブでリアルタイムに授業をやることにしました。なるべくいつもと同じように授業ができる体制をつくれないうらうかと考え、色々工夫をして、そこまで持っていったという経緯があります。

つまり、どちらかといえばオンライン向けの授業というものはやっていません。オンラインでも教室と同じように受けられる授業というのを準備するようにしました。ですから授業の内容・素材というものはほとんど変わっていません。もちろん先生たちの負担という部分では、Zoomの使い方とかは苦労しました。チャットが来ているけど気づかない先生がいるだとか、学生たちからクレームが入ったりしているんですけどね（笑）。ただそれ以外では、大きく変わったところはないです。必ずホワイトボードを写せるようになっていまして、普段画面に写して見るものは全部共有しましう、手元で見れるようにしましうと。普段からしていたと思うんですけど、やっていない先生もいましたのでそういうところは改善しました。

あえて言えば、教育用の素材をすべて動画に録っていたのですが、この動画は授業の振り返りとしては使えるものの、来年以降の動画教材として使うというのはほぼ不可能です。そういう意味では、本校の弱いところはオンデマンド授業ですかね。オンラインで、リアルタイムの授業する分には先生方もこの1年でかなりスキルアップしたと思いますし、ノウハウも溜まりました。ただ動画を録画して、それを学生たちに見てもらって、そのちにディスクッションをする、といったような授業形式は本校ではまだ取ることができないのです。アーカイブとしては残っていますが、本当にアーカイブの機能だけ。そういう資産ができなかった。そこは課題でしょうか。

Q4：学生の皆さんのオンライン授業の受講環境はどのような状況でしたか？

ハードウェアについては全員購入することになっているのですが、問題となったのはネット環境の方ですね。自宅ではどうしてもオンラインに繋がらないという学生を4月の間に洗い出して、そういった学生にはモバイルルータを貸し出すという形で対応しました。スマホで受講というのでは学生たちの負担になりますので、そこは学校で受け持とうと考えました。

オンライン環境がないという子はほとんどいみませんでした、一部にオンライン環境が不安定という学生がそれなりにいました。特に家族全員がオンライン環境になってしまったというような場合、例えばご両親やご兄弟など、それぞれがリモート対応となって、全員がZoomをつないでしまくと、ネット回線の容量が足りなかっただとか、自宅（実家）がお弁当屋さんをやっている、頻繁に使う電子レンジのせいでWi-Fiの電波が飛ばないと。そういった学生にはモバイルルータを貸し出しました。



Q5：そのほかコロナ関連でご苦労された点がありますか？

本校は前期と後期に分かれていまして、7月の末までが前期、9月からが後期となります。夏休みを挟んで分かれているのですが、前期はもうほとんどオンライン授業だったんですね。登校してきたのが指で教えられるくらいしかなかったんで、その間に学生たちの個性を把握したりすることは、かなり難しかったです。

9月からは規制が弱まって、4学年のうちの半分、2学年ずつであれば登校してきて良いということになりまして、広い教室を使って、半数の学生たちが席の間隔を空けて座るといふことであれば良いと許可を頂きました。そうなるからは少しずつ、学生の個性を掴むことができましたが、特に1年生はまだ多少ギクシャクとしていますね。

これまで学生同士の交流と言う部分では、学校に集まって勉強することそのものが大事だとまでは思いませんでした。しかしオンラインでずっと続けてみて、やはり学校に集まってきて、いろいろな人たちの顔を見ながら授業を受けるということは大事なんだと感じました。これが集合教育ということなのかと。わかってはいたつもりですが、実感したのはこのタイミングでした。

Q6：TACの通信教育（WEBコース）をご採用いただいた理由は？

情報処理安全確保支援士（以降：SC）のWebコースを利用させていただいた一番のきっかけは、やはりコロナということになります。ただその前から、SCに関しては何かしら手を打たなければという認識があつて、情報収集をしていました。そのなかで動かないといけなくなつたときに、以前ご提案があつたことを思い出し、連絡をさせていただきました。

実際には4月の試験が中止になってしまったので、そこでは採用ということになりませんでした。そのときに使わせていただいた資料が良かったと感じていました。一番良かったのは教科書ですね。TACさんの教科書は最高に良かったです。今までいろいろなところの教科書や問題集を使わせていただいたのですが、実際に出題されるようなものが載っていないで「これじゃないんだよな、聞きたいことは」って思っていました。教科書を見させていただいたときに、まさに「これが言いたい！」というようなことが沢山載っていて、最終的にいろいろなものを調べてもそこに行き着きましたので、それで採用をさせていただいたというのが一つ経緯としてあります。

それと、値段が手頃だったというのがありますね。やはりSCはFEやAPなどとはレベルが違ふので、学生たちの自助努力が非常に重要になってきます。コースとしては、それを促すようなものだったということも大きいかなと思います。

Q7:TAC-LMS（学習進捗管理システム）はどのように活用されましたか？

通常ですと情報処理試験に向けて、学生たちが直前対策授業を始めるのは1ヵ月前からとなります。試験前日までのこの3週間を本校では「情報処理対策期間」として、特に授業も力を入れて行う期間になります。ただしSCについては、その3週間では時間が足りませんので、その前から自習用として、午前の勉強をしっかりしなさいよ、という形でTACのコースを使ってもらっていました。とはいえ、他の学習などもあり負担になってしまうので、強制はしませんでした。自分たちの力でやれるところをやっていきましょと伝えていました。

LMSにより、受講しているかどうかはわかるというのは学生も知っていますので、ゆるやかな強制力として使わせていただいた形です。学生たちは見られているとなると、一生懸命頑張るものですからね。というわけで、マネジメントとして使ったわけではなくて、若干のプレッシャーをかけるというか、あくまで確認のためというか、そんなような感じで使わせていただきました。

学生たちの一番のハードルは、ログインすることです。渡してから2週間経ってもログインしていない学生もいて、「なにしてんだ」と言った覚えはありますけどね（笑）。

Q8:学生さんからの評判や先生からみでのコースの評価はいかがですか？

ちょうど今日、本試験の結果が出て、コースを利用した5名のうち3名がSCに合格することができました。

SCは初めてという学生ばかりでしたので、彼らにとって良かったのか、悪かったのかということについては、まだ感想が得られていないのですが、単純な反応としては「難しい」といった言葉が出ていましたね。ただそれはSCの内容が難しいということだと思うので、使いやすいか、使いにくいといったことではないでしょう。彼らはそれしか知らないで、とくに不満はでなかったという意味では良かったのかなと思います。

成果については本当に上出来だと思います。素晴らしいです。5人のうちの4人は、午後Ⅱまで進むことができましたし、午後Ⅱで落ちてしまった学生も、50点を超えるような点数でしたので、次回は受かるんじゃないかなと。光がみえている状況ですから、非常に有用だったと思います。

Q9:情報処理試験は中止や延期またCBT化の発表など色々ありましたが影響は？

春の試験については、特に何か学生が変わることはなかったと思います。秋については確か9月半ばに延期の発表がありましたね。本校ではちょうど2週間後くらいから、さきほどお話しした情報処理試験の直前対策期間に入るという段階だったので、教員側としては「さあ、どうしようか…」となりました。

試験は延期だけじゃ勉強しましょ！と言っても、学生はモチベーションが上がりません。それでも「延期になるが中止ではない。それに向けて勉強しましょね」というようなスタンスで動いていきました。ただ学生側も頭ではわかっているはずなのですが、勉強に対する取り組みはなかなか難しいところがあったと思います。やっぱり模擬試験も点数が上がってこなかったですし、最後の試験日が定まらない、ということが学生にとっては、モチベーション維持という部分でかなりの大変になっていると感じます。

学生たちからも「ここで勉強しても、もう一回あとで勉強しなきゃいけないんだよね。辛いよ」という声は上がっていましたね。3週間のスケジュールで、1週目は流れという勢いで、学生たちもついてくるのですが、2週目になるとかなり疲労が激しくなってきました。できる学生は良いけど、そうでない学生は辛いだろうと。

彼らは短い時間を集中するのはすごく得意なんです。ギョッと詰め込んでパッと試験受けて、その後にフワッと忘れる。だから定着って難しい。

本校は午前免除試験の認定校にもなっているのですが、午前免除に受かっていない学生がその3週間すごく努力して、10月の模擬試験で楽々クリアするような点数をとっていたはずなのに、実際に12月の免除試験を受けてみたら全然ダメで、こんなにも変わるのかという驚きもありました。やはり詰め込みっていいものも良くないね、継続して学習を続けていくしかないよね、と学生とも話したところ。ですから今年は非常に難しいと思います。

Q10:CBT化も含め来期以降の情報処理試験対策については、どのような計画ですか？



本校では情報処理安全確保支援士についてはほとんど触っていませんが、FEIに関してはAPとSCの申込みの期間と、FEの発表の期間が前後してしまうのが難しいところです。例年であれば試験の合格発表が終わったあとに申込時期がくるのですが、今年に関しては1月の試験を受けて、結果発表は2月。ところがAPの申込みは1月末から2月上旬なんですね。そうするとFEの結果をもってAPを受けたい、という学生の指導がちょっと難しくなってきます。そのあたりは検討していかなければなりません。今年に限っては、FEを突破できそうな学生については、APの申込を先にしても良いのでは、という運用をしようと考えてはいます。

それと、今後は学科や学年を横断的に、情報処理対策期間を設けるというのは難しいのかなという印象ですね。一つ一つのクラスごとにしないと難しいのかなと。

また現状では本試験のCBT形式の受験会場が、本校の周りには1箇所しかありませんので、そこで全員で同じ日に受けに行くというのは、現実的に不可能でしょう。そのあたりをどうしようかということも検討中です。

いずれにせよ、延期になったFEのCBTでの試験を受験して、それがどのようなものなのかを確かめてみる。それからAPやSCの申込みをしてみて、春に受けましょうと。次年度のFEに関しては、これから考えていきたいと思いますという状況です。

Q11: コロナ禍における学生の方の就職活動はどうでしたか？

現時点で本校の学生の内定取得率は、すべての学科を合わせて87%くらいになっています。去年は非常に好調で、この時期には90%を超えていました。この差はというと、やはり緊急事態宣言の1か月間がかなり大きいのでしょう。ほぼすべての企業の採用活動が中断されてしまいましたので、そこで後ろ倒しになった分が今、ツケとして回ってきているのではないかなと思っています。

求人や就職活動の面接などの、試験自体はほとんど変わっていませんね。形式が変わっただけです。Zoomなどのオンラインで受ける、説明会もインターンシップも全部オンライン。そんなような状態ですが、採用の数自体は変わっていません。

ただ、変わっていないのは静岡県内の話だけです。静岡はのんびりしていますし、感染者もそんなに多くはないので、企業の方も例年の採用活動からあまり変わっていません。ただ東京に行くとなるといきなりハードルが上がります。例年ですと、クラスの半数が東京を目指して、東京で内定をもらうということが多いのですが、今年は2人くらいしかいないですね。

Q12: 今後このような教材・ツールあったらいいといったことはありますか？

情報処理試験の結果が出たばかりです。なのでなんともいえませんが、課題の一つだったSGは目処が立ちました。ただAPの合格率は県内ではトップとはいえ、例年に比べると高いとはいえません。もう少し押し上げていくためにはどうしたらいいか、ということを考えなければならぬと思っています。

もう一つ、オンラインによってリアルタイムで行う授業については、今回のことでノウハウをためることができました。しかしリカレント教育やアクティブラーニングを実施しようとしたときに、動画配信で授業を受けてもらって、そのあとにリアルタイムでオンラインのディスカッションをしたり、課題演習をするといったやり方を増やしていきたいと考えているのですが、そこに舵をきるためにはもう少し努力が必要かなと。

そのための学習ツール・教材として、やはり動画教材だったり、もしくは演習教材だったり、そういったものを強化していきたいと思っています。また学生たちが提出したものを評価していくようなLMSとか、そういうものも必要かなと感じています。

Q13: 今後の御校の展開についてお聞かせください。

やはりデータサイエンスの分野に注目すべきでしょう。本来的には、今、静岡県内にデータサイエンスの知識がとても必要になっています。しかし静岡ではそういった人材がとても少ないので、結局はその需要を東京に求めることになります。

ところが東京の人たちは静岡のことを知りません。そのため、まず静岡の地域産業の特徴について知ることから始めることになります。そうなるコストがかかり、非常に割高になってしまいます。

そうはいても、県内でデータサイエンティストを育成するところがないのです。ですから、少しでも企業が求める人材像に沿った学生を育成するために、幅広いデータサイエンスの知識をもった学生を育成できるようなカリキュラムを作る、カリキュラムまではいかないにしても、コンテンツというのを学生たちに提供していかなければならないと思っています。

一方で、そういったデータサイエンティストとして仕事をするとなると、就職先が東京に向いてしまいます。学生に「なんで東京に出るんだ？」と聞くと、「勉強会やセミナーは全部東京でやるじゃないですか。それに静岡にいても何もできないよ」と言うんです。

だから、少しでも地元の企業でデータサイエンティストとして就職ができるように、そこにデータサイエンティストのコミュニティが少しずつでもできるようにしたい。

地元への貢献としては、今、本校では産官学連携のプロジェクトに多数関わらせていただいている、由比サクラエビプロジェクトといったことにも参加しています。ほかにも静岡のお茶畑やみかん農家からも、「是非力を貸してほしい」という声が上がってきていて、先端技術をビジネスに生かすチャンスとして、今後も連携プロジェクトに関わっていければいいかなと。

そういうところで特徴をつけて学校を作っていけないと負けてしまう、そういう世界になるんじゃないかなと。距離というのがなくなっちゃったんですね。距離がコストじゃなくなっちゃったので。幸いにもサクラエビプロジェクトは静岡市の事業から、県の事業に移行されて規模が少し大きくなり、いろいろなところで宣伝できるようになりました。多くの人に関わって、大きなことできるんだよ、という部分をもっと広めていければ、静岡も元気に、学校も元気に、学生も元気になるんじゃないかと期待しています。

※Zoomは、Zoom Video Communications, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

～インタビューを終えて～

今回は、弊社 通信教育TAC Biz Schoolについて取材させていただきました。お話を聞く中で「環境の変化に即対応する学校」という印象を受けました。お忙しい時期にも関わらず、取材をお受けいただきありがとうございます。

「菜」はインタビュー記事以外にも様々な情報を発信！下記URLより本誌をダウンロードいただけます！

TAC 専門学校向けサービス HP → <https://www.tac-school.co.jp/senmongakko/>